

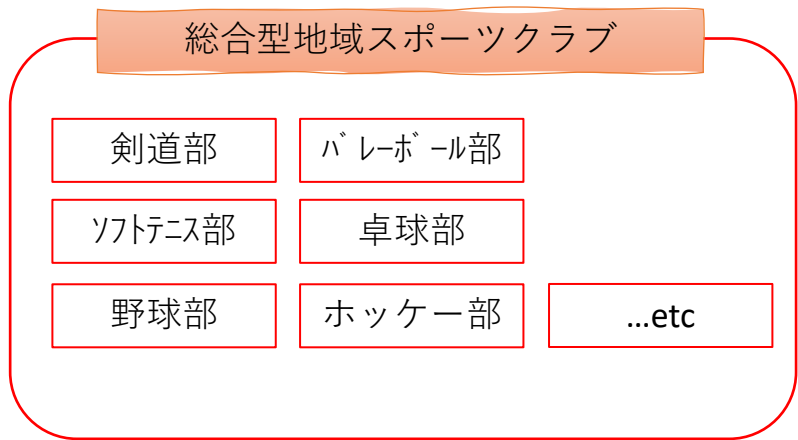
地域移行の想定パターン

◆活動の受け皿・形態

部活動を担っていた学校に代わる、**多様な活動の母体・形態**

①総合型地域スポーツクラブが受け皿となる形

⇒地域にすでに存在する総合型地域スポーツクラブなどの団体へ移行するパターン



【メリット】

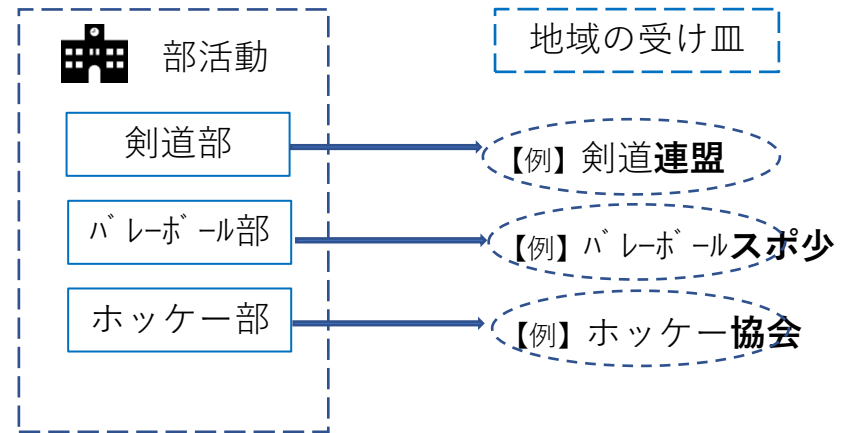
- ・運営基盤が確立されている
- ・統一した運営が可能（保護者負担など）

【主な課題】

- ・部活動種目への対応
- ・指導者の確保

②既存クラブ・団体がそれぞれの部活動の受け皿となる形

⇒部活動における各競技種目ごとに、個々の受け皿へ移行するパターン



【メリット】

- ・専門的な質の高い指導が可能
- ・小学生からの継続的な指導が可能（スポ少）

【主な課題】

- ・運営費の確保
- ・受け入れ体制の整備が必要

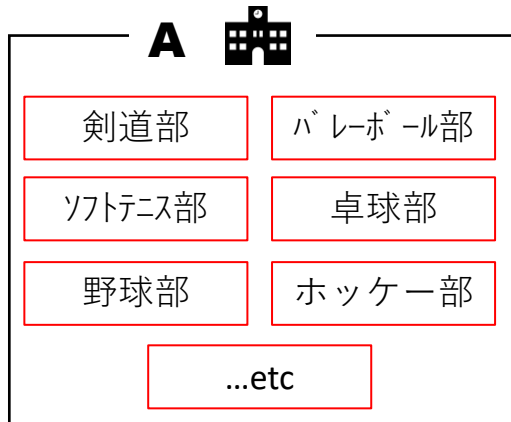
地域移行の想定パターン

◆対象となる学校部活動

対象となる学校部活動が、単体なのか複数なのか

単体の学校部活動

例) A中学校



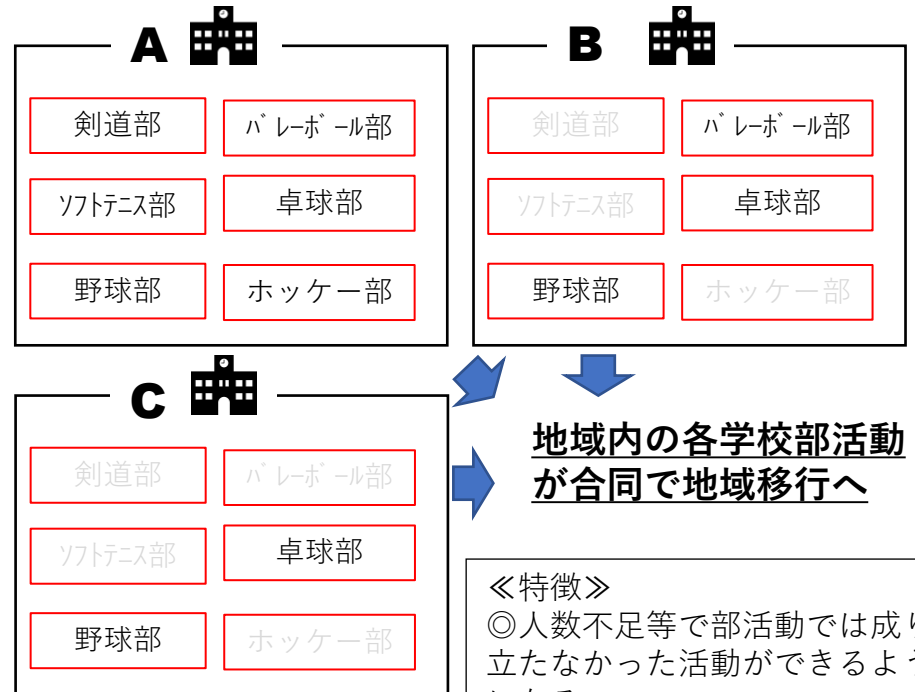
学校単位での地域移行へ

《特徴》

◎部活動のメンバー（部員）は変わらずに活動できる

複数の学校部活動

例) A中学校、B中学校、C中学校



《特徴》

◎人数不足等で部活動では成り立たなかった活動ができるようになる

地域移行で想定される主な課題

- 実施主体 : 受け皿や移行体制を構築・調整する コーディネーター や、活動に対する細かな 運営事務 の担い手は誰が行うのか
- 責任・管理 : 地域移行先の活動時における 責任や安全管理 は誰が・どう担うのか
- 指導者 : 地域移行先の 指導者はどのように確保 するのか
- 活動場所 : 活動場所をどのように確保 するのか、 どのように調整 するのか
- 移動 : 活動場所や拠点によって発生する 参加者の移動負担に対して、どのように対応 するのか
- 費用 : 参加者に対して どの程度受益者負担をかけるのか、指導者の謝金などの支出に対する 財源をどのように確保 するのか
- 大会出場 : 学校部活動として出場するのか、移行先で出場するのか



課題解決に向けて

えちぜんスポーツクラブ、剣道連盟、バレーボール協会、卓球協会、軟式野球連盟、ホッケー協会、関係スポーツ少年団、吹奏楽連盟等や、各中学校と連携を取りながら具体的に調整していく。